



営農NEWS



イチゴに発生するハダニ類、うどんこ病、灰色かび病などに十分注意しましょう

イチゴ栽培では、例年のない寒気温の影響を受けて、また、収穫作業も盛期に入り、多忙な時期となっています。なお、イチゴを加害するハダニ類の発生は、ここ数年と同様に、本圃の初期よりやや多い傾向が続いています。病害虫発生予報 1 月号（病害虫防除所）によりますと、12 月中旬現在、ハダニ類の寄生葉率は平年より高く、被害葉率は平年並で、発生量はやや多くなると予想されています。

例年、厳冬期に入ると発生がやや抑制する傾向がありますが、安心して見逃していると、気温の上昇とともに再び発生が増加する恐れがありますので、今後とも十分な注意が必要となります。

また、これからは、うどんこ病や灰色かび病の発生しやすくなる時期となります。これら病害は、直接、果実発病による減収を招きますので、常に発生に注意し、早期発見、早期防除の徹底に心がけてください。

<ハダニ類、うどんこ病 灰色かび病 防除のポイント>

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察してください。
- 2) 発生を確認したら、少ないうちに薬剤防除を実施してください。この場合、葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布することが特に重要です。
- 3) 既に多発生した場合には、罹病葉や葉柄、果梗、果実等の病部を摘み取ってから、薬剤散布を行ってください。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除く同一系統剤の連続散布は避けてください。
- 5) ミツバチや天敵を放飼している場合には、薬剤の影響等について、メーカーや関係機関等から必ず指導を受けてください。

表 1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤（平成 27 年 1 月 19 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
コロマイト水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1 日
カネマイトフロアブル	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 1 回	□
スターマイトフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1 日
エコピタ液剤（還元澱粉糖化物）	100 倍	収穫前日まで / -	-

表 2 イチゴうどんこ病の主な防除薬剤（平成 27 年 1 月 19 日現在）

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
アフェットフロアブル	SDHI	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
ガッテン乳剤	チアゾリジン	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
トリフミン水和剤	DMI	3,000~5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	□
パンチョ T F 顆粒水和剤	フェニルアセトアミド+DMI	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日
ジーファイン水和剤	炭酸水素塩+無機銅	750~1,000 倍	収穫前日まで / -	○

※その他、被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能ですが、その際は専用の電機加熱式くん煙器を利用してください。

表 3 イチゴ灰色かび病の主な防除薬剤（平成 27 年 1 月 19 日現在）

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
ファンタジスタ顆粒水和剤	QoI	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
アフェットフロアブル	SDHI	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日
セイビアーフロアブル 20	フェニルピロール	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	-
ロブラール水和剤	ジカルボキシミド	1,500 倍	収穫前日まで / 4 回以内	□

注) 表 1、2、3 のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針（平成 26 年版）より抜粋しました。○は薬液が乾けば当日に導入可、□は影響がほとんどなく翌日に導入可、1 日は散布後 24 時間は影響し、散布 2 日後に導入可ですが、天候、施設内の環境条件（温度、換気等）により日数が前後することがあり、注意が必要です。なお、- は指針に記載なしです。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040